別紙様式３

上越教育大学研究プロジェクト　終了報告書（若手研究）

研究代表者　所属・職名　上越教育大学附属小学校・教諭
氏　　名　　二上　昌基

研究期間　平成３０年度

研究プロジェクトの名称	心と体を育む横断的・総合的な学習のアプローチ
研究プロジェクトの概要	本研究では、体育科と関連して構想された創造活動（総合的な学習の時間）において、子どもが探究的な見方・考え方をはたらかせ、自ら活動を創造していくことを目的とする。 このことを達成するために、総合的な学習の時間では、「ネイチャースポーツに挑戦する」という体験活動を中心とし、その体験を基に、学習指導要領にも示される知識や技能の習得、思考力、判断力、表現力の育成、学びに向かう力、人間性等を涵養していくことができるようにする。体験が子どもの資質・能力の育成に、教育活動の充実に大きく影響するというとらえから、質の高い体験の場を設定する。挑戦するネイチャースポーツは、オリンピック競技の中から設定する。子どもは本物と出あい活動していく中で、より感受性をはたらかせながらネイチャースポーツに挑戦していくと考える。そのことが、体育科で行うゲームとの比較、遊びとスポーツの比較、ルールの存在意義などについて思考していくきっかけとなり、学びを深めてきながら、自らの活動を創造していく姿につながる。このような一連の流れを実現するために、定期的な年間指導計画の評価、改善を行い、更新を実施する。その時の子どもの姿や思考を大切にしながら評価、改善を実施することが、活動の充実につながる。 するだけでなく、みる、支える、知るなど、スポーツや運動へのかかわりをひろげていくとともに、スポーツを通して社会とつながっていく姿を期待したい。
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	【アクションビート】 ネイチャースポーツに取り組んだり、ネイチャースポーツにかかわる人の思いを感じたりしながら、スポーツのとらえをひろげ、自分とスポーツとのかかわりを見つめることを目標に活動を構想・展開したことによって、以下のような子どもの姿が見られた。 〇挑戦する子ども 子どもは、上越 BMX 場、アクティブスポーツパーク、アウトドア専門学校、大池いこいの森、長峰スポーツ公園に出かけ、ボルダリング、BMX、MTB、カヌー、クロスカントリースキーの５つのネイチャースポーツに挑戦した。これまで体験したことのないネイチャースポーツに出あい、楽しさと怖さを感じながら体験を繰り返した。競技に挑戦する自分、自然に挑戦する自分を感じながら、悔しさ、喜び、やりがいを味わっていった。体育に苦手意識をもつ子どもも、ネイチャースポーツだけでなく、普段の体育の活動においても自ら活動にかかわる姿が見られるようになった。特に自転車は、運動能力の差が表れにくく、多くの子どもが自らかかわる姿につながった。 〇自分の成長を感じる子ども

	それぞれの競技において、共に活動してくださった講師の方々から、子どもの技能の上達をとらえて、励ましていただいたことが、子どもに大きな自信を与えた。また、ネイチャースポーツにおいて、挑戦する意思は個人に委ねられていることから、競技する自己を見つめる意識が高く、自身の成長を感じたり、足りない部分を見つめたりする子どもの様子が、振り返りシートの記述などからとらえることができた。 ・あきらめないで挑戦したら、少しずつできるようになってきた。 ・私はスポーツが嫌いだけど、自分が好きなスポーツがあることに気付いた。 〇広い視野でスポーツをとらえ、自分とのかかわりを見つめる子ども 学校に、ボルダリングが体験できる壁、MTB で走れるコースを作った。自分たちが活動するだけでなく、ネイチャースポーツに挑戦して感じた気持ちを、多くの人に味わってほしいと考えた子どもは、１学期に「アクションスポーツパーク」としてその場を整え、全校に声がけをして人を集めた。また、２学期には、その場を使って、５年１組でボルダリング大会と BMX 大会を２回開催した。休み時間には、MTB に乗って練習したり、コースを楽しんだりする姿も見られた。人に体験してもらう立場、大会の選手としての立場、大会の運営の立場、選手のためにコースを整えたり、設定したりする立場など、多くの立場で活動したことが、子どもが広い視野でスポーツをとらえることにつながった。子ども一人一人が感じたことを、実践道徳において表出していく中で、A 児は「選手のために場を整えることもスポーツへのかかわり方だと思う」B 児は「仲間を応援することも、スポーツをしていることと同じ」など、一人一人がスポーツとのかかわり方への考えを深めた。 〇様々な教育活動とつながる子ども 活動を通して子どもは「アクションビート」を以下のように振り返った。 ・ネイチャースポーツが人々の生活から生まれてきたことを知ったり、感じたりした。スポーツは自分にとって「家族」と同じである。 ・ネイチャースポーツが自分を変えてくれた要因の一つである。スポーツは自分にとって「友だち」であり、改めて友だちのよさを感じることもできた。 ・スポーツが協力という言葉によってつながりをもつものであると考えた。友だちを応援することにスポーツの価値がある。日常生活でも友だちとの関係を大切にしていきたい。 実践体育科における意欲的なゲームへのかかわり、学校行事や学級活動において、代表挨拶や６送会プロジェクトなどへの立候補など、活動を通して、新しいことに挑戦できるようになった自己の成長に気付き、活動する子どもの姿が多く見られた。
研究成果の発表状況	『今を生き明日をつくる子どもが育つ学校２０１８』「感性」がはたらく教育活動の充実　上越教育大学附属小学校著
学校現場や授業への研究成果の還元について	・学校訪問時における「アクションビート」の活動公開

【提出期限】平成３１年3月２９日（金）正午：厳守